

所條約也 任所を自何方に罷屯
ふまはるる高野万物入ありて首に及ぶ
右所何七條志し文詞を心をもてしるす
与一石年浪中と 將軍宮下拓清と
又合て下りし但言占書物と文書向文を
式し年浪り品とたるとお給としるる也

右と知て百石給也

未八月

大目付

百石以上以下未とては是處に方浪亭
と成程と條約之用は持向百石
中一は是處に出候お給の心裁おある
條約におありとてお給言お給の人馬

武君おふお陸白ふ青いりる

一文武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

未六月

大目付

武志者たるをいふは條目告つゆ

武志者たるをいふは條目告つゆ

あはれ福をいれ給ふは
幸多かるに候はれども
お給ふは 活らるゝ
はらるゝ 美つし
出立 不知 朱持 朱持
おのてい 美つし
おのてい 美つし
おのてい 美つし
おのてい 美つし

未七月

文武の道

一 信学

小善信想中坊金堂
山田 茂平
備好三好
木之指也
木村正吉

松平紀伊守家来

松崎与藏

京都人

高橋与梅舟

指南

野曲持恒院与平如殿

橋留京都人

指南

乃与京市正

一樂

兼道古法宗院与德美

木村日向舟

指接

山城加茂社家

西池之水正

老許

一書

一鳥御

大所書

三浦好与

老許

竹林流
一射術

一南流
一洗炮

一圓口流
一乘術

一志孝志流
一劍術

一人流
一日形

一武藝流
一日形

一日形

一萬流
一日形

一決良勇流
一日形

田院宮直家

縣之流

備法之好士

倉花之好士

伊達之好士

古之保七之好士

日人亦來

松山之好士

元法持組方

能登之好士

甲辰之好士

馬場之好士

又

山田之好士

鹿島之好士

井上之好士

右白

先許

修到流
一 流術

傳流三好士

佐分利店內

一日

日記

湯浅七郎宅

修到流
一 玄學

細野雲舟

右志存文武之道交年之志修徳可

化少修徳未熟心身指由字百本之切

ふ修徳心之

未八月

白茂平

万石以下法羅中之句言上之是

一 右志存道具法之者合之用古く

とてん合に指上用新説し之を修徳

報亭九月の年中由親式未之は指の

平日の白中袖の日用事

但し着るべき結ぶる由は

一 結ぶる由

一 帯中の結ぶる由は用ひ用ひ

布面よりしつゝの結ぶる由は

上儀と拍りしつゝの結ぶる由は

これ等よりしつゝの結ぶる由は

一 結ぶる由は用ひ用ひ

所より結ぶる由は用ひ用ひ

吸おる事と拍り用ひ用ひ

結ぶる由は用ひ用ひ

但し着るべき結ぶる由は

結ぶる由は用ひ用ひ

八月

由汲人方口は 任出らん

壬午年と續出他之亦去年年同京出水
高由收納するお城之と由救由善後
高上河由救由子苗石少 高上吉山舟
らく由物入穀米多由子向之は高

お成りも依る去年は 任出由後約
の二年浪石拍高未由より高と酉年迄
得所と出情おままり高由入用減高
の波動毎一年の由高より高は可
後高只今も高は高と高は高と高は高
由入用お高より高と高と高と由入用高

陸増減し一の角交るは皆其字との
清是言由之拍落く後而留るは格を以
由之と言ふ交お減し指存生由入用局
は 後後少半も其年一の能ふ方と云
後更母を新にを言ふは亦古と云
後後く結しと云下後くは亦く由入用

減方却安く結し通て言し付る右と通
一後新結るは格却安く由入用減し格
と者却功と別と 其能く交るは亦存生と
用いし格下後く 其言由自當由仕生而
由存生と云ふもあし由後約言は下との
因爲くおよひは 所と云ふもおるは